

クラスター爆弾・劣化ウラン弾 排除規定なし

非人道兵器の輸送も可能 戦争法案 井上議員・参院安保特

井上哲士参院議員が3日、安保特委で質問に立ち、戦争法案による米軍への兵たん支援の大幅な拡大で、自衛隊が米軍の保有する非人道兵器の輸送も可能になることが、明らかになりました。

「戦闘地域」での武器・弾薬の輸送を可能とする同法案について中谷元・防衛相は「法律上、特定の物品を排除する規定はない」と何でも輸送できることを認めました。

井上氏は、非人道的な兵器だとして禁止が求められてきた劣化ウラン弾や、禁止条約が発効したクラスター爆弾を米国が保有・使用を続けていることをあげ、「米国から依頼されれば日本は輸送することを法的に排除されないのではないか」と追及しました。

中谷防衛相は「クラスター爆弾は

法律上排除していない」と認め、劣化ウラン弾も「安全性について承知していないため現時点で確定的に申しあげることとはできない」と輸送を否定しませんでした。

井上氏は「米国から依頼されても断り、非人道的兵器の使用はやめよというのが当然だ。それもできず何が国際平和の貢献か」と厳しく批判しました。

核兵器搭載戦闘機の米空母の防護も

さらに井上氏は、法案で「米艦防護」も可能としている問題で、「日本が核兵器を搭載した戦闘機を載せた米空母の防護を行う可能性もある」と追及。岸田文雄外相は「米国が核兵器搭載の艦船等を警護することを要請することが想定されない」と述べ、排除はしませんでした。

米軍ヘリ空包落下問題を追及 本村議員

本村伸子衆院議員は4日、国土交通委員会で、7月21日に米軍のヘリコプターから銃弾空包3発が静岡県小山町の小山中学校に落下した事故を取り上げました。

本村氏は、当日、この米軍機が異常なほどの低空飛行で、赤ちゃんが寝付けずにぐずって困ったというお母さんの声を紹介。また、訓練は2011年のパキスタンでのビンラディン暗殺作戦などの強襲作戦に投入された米陸軍第160特殊作戦航空連隊第4大隊(通称「ナイト・ストーカーズ」)所属の特殊作戦ヘリコプターMH60Mブラックホーク3機が行っていたとの情報があると述べ、原因究明と再発防止策へのヘリの所属基地名、機種名、なぜ異常な低空飛行をしていたのか、詳しい訓練内容についてたずねました。

防衛省は、米側から、キャンプ富士で訓練中の米陸軍のヘリコプターから落下したものであるとの回答があり、関係自治体に連絡したと述べましたが、詳しい訓練内容については、「米軍の運用なので、つかんでは、

ない」と答弁しました。

本村氏は「事故を起こしても、詳しい訓練内容さえ情報開示されないのはおかしい」と批判。また、地元の小山町、御殿場市、裾野市、東富士演習場地域農民再建連盟、静岡県が防衛大臣に、米側に対し、早急な原因究明と適切な再発防止策を講じ、地元で情報を開示することなどを求める要請書を出したことについて対応を質問しました。防衛省は、要請内容を米側に伝え、米側から周辺住民の方々にご懸念やご心配をおかけしたことは、遺憾であり、今後、米陸軍として適切に対応する旨の回答があつたと答弁しました。

さらに、本村氏は「事故の原因究明が行われていないもとの訓練継続をやめるべきだ」と太田昭宏・国交大臣に認識を問いました。

しかし、太田大臣は答弁に立たず、防衛省が「防衛省として遺憾の意を伝え、原因究明と再発防止を申し入れている。米側から情報を得られ次第、関係自治体等に速やかに情報提供を行う」と述べました。

戦争法案廃案に 本村、島津、たけだ氏



本村伸子、島津幸広両衆院議員、たけだ良介参院比例候補は、8月3日、リニア調査で訪問した岐阜県の恵那駅前で、水野功教恵那市議や地元支部、後援会の人たちと早朝宣伝を行いました。